

2021～2022年度 小倉中央ロータリークラブ週報

第1259回 本日の例会 5月23日(月)

本日の卓話 クラブ協議会
「地区研修・協議会報告」



例会日 月曜日 12:30～13:30
例会場 リーガロイヤルホテル小倉
事務所 小倉北区堺町1-2-16-3F
TEL 093-531-4015
FAX 093-531-1022

会長の時間（5月16日 1258回 例会記録）

先日長良川の鵜飼いの話をしました。濃尾平野を流れる長良川は、木曾川・揖斐川と併せて木曾川・長良川・揖斐川を木曾三川と言います。合流と分岐を繰り返す複雑な地形のため、たびたび洪水をおこしておりました。地理で習った輪中や三角州といった地形の写真の多くはこの辺りのものです。今から250年ほど前の宝暦年間（1751年から1765年 徳川8代9代将軍・吉宗が大御所時代）、徳川幕府は安定的な幕府運営を行っておりました。全国の大名の経済力を割くために参勤交代も定着させておりました。江戸に一番遠い薩摩藩は加賀藩に次ぐ2番目の石高を誇り、幕府からは安心できない藩でありましたから、参勤交代だけでは安心できず、今までの何度となく失敗してきた木曾三川の治水工事を命じて藩の財力を削ごうとしたのです。薩摩藩は幕府の命に逆らえば、謀反の罪で取り潰しです。まさに所謂「イエス」か「はい」しかないのです。家老平田鞠負（ゆきえ）等まず350人が鹿児島から1200K離れた木曾三川に向かいました。幕府は治水が目的ではありましたが、薩摩の財力を削ぐのもおきな目的のため工事を遅らせるために手立てを講じました。まず現地で大工や専門職人を雇うことを禁じ、自国のお金で自国の技術で堤の完成を求めました。洪水のききんで苦しむ地域住人を高い賃金で雇うことを要求しました。住民には薩摩の武士にわらじや草履などを売ることを禁じました。食事は大変な重労働なのに一汁一菜しか許されず栄養失調になりました。住民たちは薩摩の侍の働きには感謝し、差し入れなどこっそりしましたが、見つければ罰を受けました。赤痢が流行した時期には栄養不足のため157名が罹患し33名が病死しました。東の堤が完成すれば、西の堤が壊れる、南が完成すれば北が壊れるような難工事でありました。加えて幕府の工事遅延策で薩摩藩が作った堤を夜中に壊して回るという行為も一度ならず、薩摩の武士2名が抗議の切腹をしましたが、抗議すること自体が反逆のため薩摩は病死と届けるしかありませんでした。このようなやり方に幕府側の役人も義憤を感じ幕府に抗議して2名の切腹者を出したほどでした。1年ちょっとの工事完成までに、幕府の仕打ちに抗議の切腹は51人でした。切腹はあくまで病死として扱われ、薩摩義士たちは自らの切腹を病死とすることで薩摩藩を守ったわけです。家老平田は完成を届出、幕府の検分の後切腹したようです。50歳でした。鹿児島と木曾三川地域は「薩摩義士をたたえて」今も交流をつづけているようです。（両地域は道徳の副読本で学習していたようです）

尚、この工事には40万両、今にすれば300億円かかりました。薩摩藩はその半分以上を堺などの商人から借金をしたわけです。それを返すために今度は、薩摩藩は琉球国から奪い取った奄美諸島に重税をサトウキビに課し搾り取った現実もありました。「なんだかなあ」です。

※加賀藩は2代秀忠の実娘を2代利長の輿入れ、代々婚姻を重ねることで信頼関係を構築

出席報告 5月16日

在籍会員数	40名
義務出席者	38名
ゲスト	3名
ビジター	0名
本日出席数	34名
本日出席率	89.47%
前々回修正出席率	97.50%

次回5月30日(月)の卓話は、

夜間例会 ～新会員歓迎会！～

時間：18:30～

場所：リーガロイヤルホテル小倉【龍鳳】

5月のお誕生日

29日 巫部 祐彦会員

今月の主な予定

7日(土) 土四曜会

9日(月) 定例理事会

11日(水) 二水会

13日(金) 次年度理事・委員長会議

30日(月) 新会員 歓迎会

※新会員オリエンテーション

5月・・・9日・16日・23日

幹事報告

芳賀幹事

- ・5月30日(月)は、夜間例会「新会員の歓迎会」です。
18:30～リーガロイヤルホテル2Fの龍鳳です。
昼間の例会は、ありません。
- ・新会員オリエンテーションは、6月6日(月)に延期します。

卓話の時間

「子ども食堂について」

子ども家庭局 子育て支援課

子ども食堂担当係長 上島 未知人氏

本日は、北九州市の子ども食堂の取り組みについてご説明いたします。まず、「子ども食堂」について、明確な定義はありませんが、あえて言えば「無料もしくは低額で食事が提供され、子どもや大人がコミュニケーションを図って楽しく過ごすことのできる居場所」です。北九州市でも、「孤食の防止」や「地域の子どもと大人が安心して過ごすことのできる居場所」として実施しています。

特に知っていただきたいのは、子ども食堂は貧困対策ではなく、家庭の事情に関わらず誰でも利用できる「地域の居場所」として実施しているということです。また、正しい理解が広がれば誤った偏見も無くなり、支援が必要な方も安心して利用できるということです。

次に、市内の子ども食堂の現状ですが、4月1日現在、子ども食堂は市内に42ヶ所あり、そのうち40ヶ所が「子ども食堂ネットワーク北九州」に加盟しています。

子ども食堂の開催頻度は週1回から月に1、2回のところが多く、参加人数は平均で子どもが20～30人、ボランティアが15人前後です。ボランティアの役割は、調理をはじめ、子どもたちの見守りや遊び相手、学習支援などを行っています。

また、開催場所は市民センターなどが多く、地域の有志のボランティアグループやNPO法人、企業など、北九州市では民間の方が主体となって子ども食堂を運営しています。

運営費用は、例えば月2回開催、1回あたり50食提供で、年間30～50万円程度です。運営費は、市の補助金や、市民や企業等の寄付金、参加費などおみに賄われており、食材も、購入する以外に、皆様のご寄付やフードバンク団体からの提供などで賄われています。民間主体の子ども食堂の活動が安定的に続くよう、運営費の補助や、企業等とのつなぎ役、

子ども食堂の運営や立ち上げの相談対応など、市も側面的なサポートを行っています。

次に、子ども食堂が社会的に果たしている役割についても説明いたします。

まず、子ども食堂は「地域の居場所」としての役割を果たしており、子どもたちをはじめ、ボランティアの学生や大人、お年寄りなどさまざまな年代の方が参加する「多世代の交流拠点」となっています。また、子ども食堂を通じて顔見知りになることで、子ども食堂以外の場でも地域の交流が増えていきますし、お父さんやお母さんが少し息抜きをできる場所、お年寄りの生きがいづくりの場所など、さまざまな方の居場所になっています。

また、貧困対策等の側面も全く無いわけではなく、例えば開催頻度が月1～2回でも、鍋を囲んだ経験の無い子が子ども食堂で初めて鍋を囲んだというように「経験の貧困」の解消につながったり、定期的に子ども食堂に通うことで、何か問題を抱えたときに運営スタッフに気軽に相談ができるようになるなど、支援が必要な方を支える役割も果たしています。

最後に、子ども食堂が長く続いていくためには、市民や企業・団体の皆様のご支援が必要です。ご支援の方法は、食材や運営費のご寄付だけでなく、ボランティアの派遣や食材等の保管場所の提供などさまざまあります。できることをできる範囲で結構ですし、また、SDGsなど企業や団体の皆様の活動にも貢献できる形で、私たちもいただいたご支援へのPR等に取り組みたいと考えています。

ぜひ「オール北九州」で子ども食堂の活動を支援し、子どもたちや地域の皆様の居場所を拡げていければと思いますので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。



ニコニコ献金報告

累計 443,500円

白石・芳賀・北垣会員一上島様、ようこそお越しくださいました。

本日は、卓話、よろしくお願ひ致します。

林田・古川会員一皆様、13日の次年度委員長会議にご出席ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひ致します。

白石会員一大西さん、創立50周年おめでとございます。

時代のニーズを受け止め、地域に寄り添った御社の益々のご発展を祈念いたします。

次は、100年ですね。

大西会員一①本日卓話 子ども家庭局子育て支援課子ども食堂担当係長 上島未知人様、よろしくお願ひします。

②白石会長、大変お世話になりました。ありがとうございました。

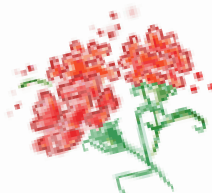
村口会員一うれしい事がありましたのでニコニコ!!

合計 24,000円

第4回 新会員オリエンテーション

講師：湯口会員

参加者：白石会長 芳賀幹事 大西 森本 鍋島
長戸 富士本 巫部 北垣 長山 田村
廣石 江口 各会員 計14名



次年度理事・委員長会議

日時 5月13日(金) 18:00

場所 リーガロイヤルホテル小倉 4F

出席者 林田 古川 野口 渡邊 白石 梶原 長戸
北垣 安木 安部 池浦 河野 狩野 芳賀
巫部 羽地 各会員

早いもので、1か月足らずで林田年度がスタートします。地区研修・協議会を前に次年度林田会長より、新年度の方針や各委員会活動についての話がありました。皆さま、どうぞご協力をお願いします。

